

## 1. 巻頭言

長崎大学長

齋藤 寛

president@ml.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学は大学独立法人化に際して「中期目標・中期計画」を策定しました。その中核部分は以下のとおりです。

『長崎大学はこれまで「長崎に根付く伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的发展に貢献する」との理念に基づき、教育・研究活動を展開してきた。新世紀初頭の国立大学法人への移行を契機に、教育研究の更なる高度化と個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な「知の情報発信拠点」であり続けることを基本的な目的とする。』

長崎大学はこのたび「長崎大学高度情報化推進に関する提言」を受け入れることとしました。これは「情報基盤の整備等に関する検討ワーキンググループ」からの提言を全学で審議検討し、了承したものです。これにより長崎大学は、はじめて情報に関する基本政策をとりまとめることができました。

ワーキンググループメンバーは岡林隆敏委員長（附属図書館長）以下 12 名の委員からなりますが、総合情報処理センターの野崎剛一助教授ならびに柳生大輔助手に参加願いました。

このことから長崎大学が「総合情報処理センター」に寄せる期待がいかに大きいかがおわかりいただきましょう。

提言には、長崎大学情報関連業務の意思決定及び執行システムの確立のための「情報政策委員会（仮称）の設置」、ならびに「情報メディア基盤センター（仮称）設置」が述べられていて、「情報メディア基盤センター（仮称）」はネットワークの支援から大学情報業務の支援、長崎大学に適した新しい技術の研究開発をおこなうとされています。

この提言をうけて、これまで本学の情報に関する業務が縦割りで、また個別に行われてきたことの非合理性・非効率性を改善するため、近い将来に情報メディア基盤センター（仮称）を設置します。総合情報処理センターにはその中核的な役割を担っていただきます。どうかよろしくお願いします。

「情報処理は長崎大学に学べ」という評価を得ないようでは長崎大学の将来はありません。